

第一号議案

令和元(平成31)年度 特定非営利活動法人もちもちの木 活動報告(案)

理念の共有に加えてミッション、ビジョン、目指すべき人物像を言語化して次世代への方向を明確に示すために、多様な価値観を認め合う組織作りの土台として100年時代の社会人基礎力の獲得とプラスのストロークの習得を職員のスキルとして標準化した。

介護事業、コミュニティ支援事業のアクションプランを再評価し新たな課題を明確にしてプランを刷新していくことには着手できず運営で手いっぱいだった。各施設の空き時間を最大限に活用する企画を打ち出して土橋、庚午の地域活動に貢献した。もっとも空き時間のある庚午のおうちの運営基盤を強化し新規事業として人材育成と相談事業を開始した。

○ミッション：使命

住民参加とボランティア精神のもとに、地域に根差したサービスを提供し、すべての人が健やかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与する事

○ビジョン：将来像

人の縁という財産を創ろう

世代を超えた多世代のつながりが新しいセーフティネットになる

○もちもちの木の目指す人物像

「優しさと勇気のある人」

失敗を隠さず、嘘なく、個人を責めずチームで受け止め、想いを言語化して、いち早く状況を整理し改善に向き合う人

「地域と共にある法人」

★地域コミュニティ支援事業と介護事業をリンクさせる。

地域から考える新しい介護のカタチを創造するために次世代ケアリーダー養成講座のモデル講座を実施した(計3回、8名参加)

地域活動者の暮らしのリスクマネジメントをするために、これからの暮らしを予測してリアルな情報を提供しすること、そして介護の方針決定を手助けする仕組みを構築することは実践できなかった。実情に合わせて関係者との話し合いの場を設けることが課題。

地域活動に参加した職員 23名/全職員62名(令和元年度在籍職員)

地域活動参加者 延べ10,819名

「働き方改革」

100年時代を踏まえた社会人基礎力の獲得と効率化

★チームワークを意識して、部門の役割・個人の役割を明確にする。

・主体性を発揮できる土壌、職員のコミュニケーション能力の向上

→サイボウズ、会議のあり方など各事業所で創意工夫がみられた。互いの良さを共有することが課題となっている。

・職業人としての基本マナーおよびハラスメントの理解、プラスのストロークの習得に関してアンガーマネジメント体験講座等を全員で学び理解に努めた。

★介護用リフト等の導入には至らなかった。今後の課題となった。

★決められた時間内で業務を行い、残業の少ない生活をするために業務分担を見直した。

・自主的にスキルアップできるよう自己啓発を促進し研修情報を提供した。

・個人面談で意欲的な職員に対して個別の研修の機会を設け、スキルアップのサポートを強化した。

・キャリアパス制度の定着に向けて、アセッサー資格取得や研修参加を推進するために法人内研修制度をブラッシュアップし、介護基礎評価のモデルを作成した。

・介護キャリア段位制度の評価項目を活用して個人の介護能力のアセスメントを実施。個々のできること・得意なことを共有し、できないことを習得・不得意なことを得意にスキルアップする方法を指導するために介護基礎評価を実施した。

・管理者、リーダーには根拠にもとづいた職員の能力評価を行い、課題を明確にしたうえで個別研修計画を立てる手法を学ぶためにアセッサー資格取得を提案。法人全体でのアセッサー資格取得者は7名となった。

・昨年終了できなかった<アセッサーモデル事業>を実施。1名の評価を実施し根拠ある介護の考え方を理解することが出来た。

・介護保険上の同サービスでの記録等統一を検討した。

・職員の急な休みに際して他事業所からのスポット勤務の仕組みを構築するため、新たな働き方「マルチワーカー(仮称)」を模索し呼びかけを行ったところ、現在12名の職員が自発的に参加している。

「利益確保」

★利益確保することが事業継承には不可欠！引き続き営業力強化と経費削減を実施。

・経営会議の開催（毎月第3火曜日 17時半～18時半）

理事会役員、管理者、リーダー、総務担当者、広銀コンサルティング担当者、その他の有識者で開催した。

毎月の経営会議で時代に合った経営に関する必要な知識や考え方を知り理解し、前月のデータを共有し分析をした。またそれに伴うアクションプランの作成と修正を随時行った。事業所によ

って人件費率が標準を大きく上回り収益を圧迫している為、広銀コンサルティングの指導を受け業界平均 62%を基準として健全な運営の転換が急務となった。

職員が定着しない時期に、定着しない人材派遣を活用したことが大きな負担となり見直しが行われた。

- ・管理者会議の開催（毎月第 1 水曜日 18 時～19 時）

管理者・リーダー・総務担当で開催した。

事業所運営に関する必要な知識や考え方を理解し職員の研修の実施状況、アクションプランの進捗状況を報告し共有した。

- ・各職員が利用者確保にむけて意識して営業を行い（広報紙配布、電話対応、来訪者対応、地域住民・親戚への口コミ等）チラシやショップカード等の作成も行った。

- ・地域からの相談・紹介・介護事業所の利用やデイからグループへの入居を数値化（地域からの各事業所の信頼度の評価）は有効な広報活動の行動の目安となり、どう動けばよいのかが理解できた。

- ・『より長く、より回数多く利用したいデイサービス』、『より早く入居したいグループホーム』と思われるような取り組みとして地域での広報活動、他の事業所のつながり、家族との集いなど各事業所で行った。好事例を共有して全体の取り組みにしておくことが課題となった。

- ・利用相談・紹介・利用および中止件数、デイからグループへの入居者数

グループホーム土橋 待機登録 12 件 新規入所者 1 名（うち D 土橋利用者 0 名）

デイサービス土橋 相談 33 件 体験 17 名 新規 10 名 利用中止 9 名

グループホーム古田 待機登録 24 件 新規入所者 3 名（うち D 古田利用者 0 名）

デイサービス古田 相談 12 件 体験 9 名 新規 7 名 利用中止 10 名

- ・新規事業の展開

目標収益 50 万円に対して、収益 35 万円（達成率 70%）

- ①企業介護離職相談事業 研修 1 回
- ②認知症フレンドリー金融サービス研修 1 回
- ③ストロークライフ学習会 8 回
- ④アンガーマネジメント体験研修 2 回
- ⑤コンサルティング クライアント 2 か所 14 回
- ⑥事業所見学と研修 東京大学
- ⑦次世代ケアリーダー養成講座 3 回
- ⑧映画上映会「ポップコーンシアター」開催 1 回

1. 会 議

(1) 第18期通常総会・活動報告交流会

令和元年5月25日(土)18:00~21:00 広島市文化交流会館 3階「銀河」にて
職員30名以上、地域活動者や行政関係者など40名以上が参加し盛況だった。

(2) 理事会

経営会議と同日開催とした。

(3) 経営会議

理事長、副理事長、各事業所管理者、リーダー、総務、広島銀行コンサルティングサービスの担当で毎月第3火曜日に会議を開催し、各事業所の月次収益・稼働率について協議・情報共有を行った(計12回開催)。

(4) 管理者会議

各事業所管理者、リーダー、総務が毎月第1水曜日に会議を開催し、事業所の状況報告、人事、安全衛生等について検討を行った(計12回開催)。

(5) 法人全体会議

【第1回】令和元年9月30日(月)18:30~20:00 庚午のうちにて

【第2回】令和2年3月30日(月)18:30~20:00 オンライン(土橋・庚午にて)

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初のオンライン会議を行った。

2. 介護事業

令和元年10月からの消費税増税に伴い、全事業所で利用料金の改定を行った。

(1) 土橋のおうち

◎グループホーム土橋のおうち（定員9名）

入居状況（令和2.3.31現在）

入居者 9名（女性8名、男性1名 平均年齢 84.7歳）平均介護度 2.7

| 介護度 | 人数 |
|------|----|
| 要介護1 | 1 |
| 要介護2 | 3 |
| 要介護3 | 3 |
| 要介護4 | 1 |
| 要介護5 | 1 |

| 月 | 入居者(人) | 空室 | 入院 |
|-----|--------|----|----|
| 4月 | 9 | 0 | 0 |
| 5月 | 9 | 0 | 0 |
| 6月 | 9 | 0 | 0 |
| 7月 | 8 | 1 | 0 |
| 8月 | 8 | 1 | 0 |
| 9月 | 9 | 0 | 0 |
| 10月 | 9 | 0 | 0 |
| 11月 | 9 | 0 | 0 |
| 12月 | 9 | 0 | 0 |
| 1月 | 9 | 0 | 0 |
| 2月 | 9 | 0 | 0 |
| 3月 | 9 | 0 | 1 |

居室の空き期間 7/6~8/19 44日間

入院期間（延べ日数） 3/16~14日間

カンファレンス 毎月定期開催（計12回）

運営推進会議 奇数月の2か月に1回開催

※5月は総会を兼ねて

※3月はコロナウイルス感染防止のため、文書にて報告

研修 キャリアパス研修、法人研修は研修報告参照

事業所内研修（身体拘束研修）4/21 6/22 7/25 8/21 10/5 12/22 2/23

事業所内研修

| | |
|-----------|-------------------------|
| 9/27、3/27 | 避難訓練 |
| 1/30 | 介護職ができる「看取り、エンゼルケア」について |

事業所外研修

| | |
|-----|--------------|
| 6月 | 音楽レクリエーション講座 |
| 7月 | 失禁のメカニズム |
| 12月 | 高齢者虐待防止研修会 |

行事

| | |
|-----|-----------------------|
| 4月 | 花見 |
| 5月 | フラワーフェスティバル見学 |
| 8月 | 盆踊り（本川小学校） |
| 9月 | 敬老会 |
| 11月 | もちもち祭・浜恵美須神社祭り・亥の子まつり |
| 12月 | クリスマス会 |
| 1月 | 初詣 |
| 3月 | 花見 |

※コンサート鑑賞、生け花展鑑賞、日常的に散歩、買物等個別ケアも行った。

前年度活動方針、事業所目標の評価

【令和元年度 活動方針】

“入居者様、スタッフが笑顔あふれるうちに”

【令和元年度 事業所目標】

①職員のスキルアップ・レベルアップ についての評価

→研修で学んだことを理解できていないのか、ケアに生かされず、異常時や急変時の様子を的確に伝えることができていない。事業所内外の研修のみで、自身が学ぼうという意識が薄い。

②家族会の実施 についての評価

→家族会は実施できなかった。定期的に来設されるご家族はいらっしゃるが、全員にご家族様に集まっていただけの計画を立てることができなかった。来設時に近況を報告することはできるようになった。

③環境改善 についての評価

→細かい家具の移動などは入居者様の状態に変化に応じて行った。しかし大きな改修等ができなかった。狭い空間で、それなりに危険のない環境づくりをした。

◎デイサービス土橋のおうち（定員13名）

登録者 計24名（令和2年3月31日現在）

機能訓練実施利用者 平均5.8名/日 稼働率 平均52.9%（昨年比3ポイント増）

| 介護度 | 登録者数 |
|--------|------|
| 要支援1 | 0名 |
| 要支援2 | 1名 |
| 要介護1 | 4名 |
| 要介護2 | 4名 |
| 要介護3 | 2名 |
| 要介護4 | 2名 |
| 要介護5 | 8名 |
| 日中一時支援 | 3名 |
| 計 | 24名 |

前年度活動方針、事業所目標の評価

【令和元年度の事業所目標】多職種（他事業所）と連携し根拠に基づいた介護を実践する

1. 介護実践能力の向上

根拠に基づいた介護の提供

- ・実践したことを記録に記入する時は、利用者の表情と可能な限り数値化して記録する
→正確に状況を伝えるために数値化した記録の記入をするための基準を統一した。コップごとに容量(cc)を明記し、排便スケールも統一した。
- ・実践したことをカンファレンス等で振り返り適宜修正する
→責任転換をすることなく全体の責任として受け止め修正することができた

- ・アセッサー制度を利用し技術の向上を図る（再掲→介護技術の基準として共有した
- ・介護報酬改定に沿った記録物の見直し修正（再掲→機能訓練計画の様式の見直し
- ・スタッフミーティング月2回開催（第2・4水曜日）→継続実施した

2. 利用者に関わる連携の強化

- ・他サービス業者間による連携ノートを活用・推進し情報共有の在り方の工夫を継続する
→連携ノートの活用を積極的に進めた
- ・担当者会議への積極的参加と必要時に依頼する
→症状や生活の変化に沿ってケアマネージャーに都度開催依頼した

3. 専門性の開発

- ・計画を立てて研修会へ継続的に参加し、伝達研修を実施する
→ 対面による伝達研修は開催できなかった。各自研修を受講しサイボウズで情報提供し業務に取り入れて共有した。

○ユマニチュード研修

○認知症患者の食事支援～食べられない人への食事介助のポイント（食事用ボード作成）

○実務者研修取得

○介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者取得

○おむつフitter1級取得

○認知症介護実践者取得

○認知症介護基礎研修習得

○介護福祉士実習指導者取得

4 活気ある職場づくりを推進する

- ・サイボウズを活用し、企画等の情報を法人全体で共有できるように活用する
→毎日サイボウズで共有し意見を出し合うことで日々に改善ができ会議も短縮された
- ・朝のミーティング 情報共有する内容を明確にして継続する
→朝のミーティングは共有すべき自宅での情報と毎日の利用者の状況に合わせてタスクボードを記入できるように修正した
- ・他の事業所と問題点の共有、解決するためにデイサービス古田と記録やタスク表の形式の開発を行い、緊急時等の職員支援ができるように事業所連携を図る
→職員間の連携は始まったが記録の統一や緊急時支援は今後の課題

5. 経営・運営に参画する

・定期的に居宅支援事業所を訪問して関係を安定させる。利用者増員時も1日/週利用から計画的に受け入れて定員不足に備える→職員がチラシ配布など営業に回った。ショップカードを作成してお店に置いてもらい気軽に手に取れるように作成した。また他の事業所へも応援していくスタンスの職員が増えた

6. 地域包括ケアの拠点となる事業所作り

・準備やルール、マナーなど明確にし誰もが快適に集える場の環境を整える
→町内会行事として、子ども食堂（毎週木曜日）西本川のむかしむかしの定例会が定着した活動となった。子ども食堂では利用者からの不満があり利用時間などの調整が必要となったが地域のボランティアは前向きに関わりを持っておられた。よぼうの秘密ランチ会は調理の体制が整わなくなり参加者に惜しまれたが9月を最後で閉会した。2月26日より介護事業所は新型コロナウイルス感染予防の為に外部の出入りを禁止し地域活動は休止となった。

事業所内研修

| 実施日 | 研修内容 |
|------|-------------|
| 5/16 | セクシャルハラスメント |
| 9/27 | 避難訓練 |
| 11/4 | ユマニチュード伝達講習 |
| 1/31 | 機能訓練とは |

(2) 古田のおうち

◎グループホーム古田のおうち（定員9名）

【ケア理念】

「ありのままのあなたを受け止めて、そっと寄り添う」

【令和元年度事業所目標】

「3つの空間 居心地のいい空間 心のゆとり ゆるり空間 信頼の空間」

【活動報告】

令和元年度活動計画

- ① 居住、職場、衛生環境の改善
- ② 介護実践能力向上へ根拠のあるケアと SOAP の記録、振り返りシートを活用し、次のケア内容を高める。夜勤帯の記録が次へ繋がる。
- ③ 情報の共有、連携から信頼されるチームメンバーを作る

令和元年度活動報告

- ① 浴室からの水漏れその隣室の修理工事を最優先で進めるが、その間は稼働率が78%と落ち込む。トイレ関連の2か所の新規交換が終了。動線がスムーズとなる。
昨年9月より厳しい夜勤体制が続く。月のうち1/3弱の夜勤回数の職員が複数おり、辛抱がいるシフトとなっている。有給休暇の確保と自身のメンテナンスで心のゆとりへ努力している。
浴室の浴槽下の清掃、調理業務中のキッチンシンク高さからのによる体への負担の対策等は未達成。
- ② まずは経過を書き SOAP として実施ケアを振り返るからスタートし、まだ模索中。
「書く」ことを身構えて、時間を要している。記録内容を時系列で追い、根拠をつかみ、次へ繋ぐケアとしている。
- ③ 24 時間を変則、交代のメンバーでつないでいる。メンバーにより、強み、弱みの流動的な面を踏まえ、その日のチーム力をつけてきた。

入居状況（R2，4/30 現在）

| 介護度 | 人 数 | |
|------|--------|-------|
| | H31. 4 | R2. 4 |
| 要支援2 | 0 | 1 |
| 要介護1 | 2 | 2 |
| 要介護2 | 1 | 1 |
| 要介護3 | 0 | 0 |
| 要介護4 | 2 | 2 |
| 要介護5 | 2 | 3 |

11/16 家族会 入居者9名 家族8名 職員8名 ボランティア1名の総勢26名参加

定例会議 毎月第1金曜日（計12回開催）

運営推進会議 偶数月第3水曜日（計6回開催）

研 修

事業所外研修

| 実施日 | 研修内容 |
|-------|---|
| 8/6 | 法令遵守、倫理、個人情報、プライバシー保護～「介護サービス情報の公表」制度対応 |
| 11/28 | 高齢者虐待防止研修会 |
| 12/16 | 施設サービス計画研修 |
| 2/14 | 高齢者虐待対応研修 |

事業所内研修

| 実施日 | 研修内容 |
|-------------------|----------------------------|
| 5/23、11/5 | 防火訓練 |
| 6/6、11/1、12/6、2/7 | 高齢者虐待、身体拘束防止学習会 |
| 8/7 | キャリアパス 福祉用具専門員資格取得受講伝達学習 |
| 10/30 | 根拠のあるケアを目指して、入居者の1例 認知症の理解 |

◎デイサービス古田のおうち（定員13名）

【令和元年度の事業所目標】

1. 私たち

- ① 専門職として、ユマニチュードを確実に身につけケアの統一をする。
- ② サイボウズを活用し事業所内での細やかな情報共有をはかる

2. 経営

- ① 利用実績 10名/日
- ② 機能訓練加算継続

3. 地域

地域との関わり方について今年度を通して検討する

【活動報告】

1. 私たち

- 職員2名外部研のユマニチュード研修に参加

◇ 事業所内研修を開催

◇ 法人研修を担当

ユマニチュードの実践において全ての職員が習慣となっており認知症の方へのケアをチームで行うことができた。また、それにより職員のストレスも軽減された。

●利用者についての情報・サービス担当者会議の議事録・連絡事項等にサイボウズを使うようになったため、時間をかけず情報共有ができるようになった。

勤務時間内でのサイボウズの確認や、職員が円滑に PC/タブレットが使用できる環境が課題となった。

2. 経営

●平均利用実績 7.18／1日

入所・入院が続き登録の終了が続く中、新規利用者が思うように獲得ができず苦戦した。営業への意識が薄く待機者がいない状況があった。

●機能訓練加算 3名

3. 地域

●カフェもちもちオレンジ

●地域食堂

●文化活動支援員の地域活動

「いきいきプラチナ塾」 「読み聞かせ会」

デイサービスに併設されている地域交流スペースでの活動、法人の地域事業において職員は常に意識的に関わり地域住民との繋がりを持つことができた。また、デイサービスで質の良い介護を実践することでデイサービスへの利用者獲得つながった事例もあった。

文化活動支援員が地域活動を行うことで古田のおうちを知っていただくことや事業所に来ていただくことができた。

ミーティング 毎月1回開催（計11回）

運営推進会議 8/21・2/19

事業所内研修

| 実施日 | 研修内容 |
|------|---------------------------|
| 8/26 | 食事介助 |
| 11/4 | ユマニチュード伝達講習（デイサービス土橋合同研修） |
| 1/31 | 機能訓練とは |

事業所外研修

| 実施日 | 研修内容 |
|-------|-------------|
| 5/22 | 福祉職場のリーダー研修 |
| 10/30 | ユマニチュード研修 |
| 11/27 | 認知症介護基礎研修 |
| 2/14 | 高齢者虐待対応研修 |

3. 地域コミュニティ支援事業

(1) 土橋のおうち

◎よぼうの秘密ランチ会（デイサービス土橋のおうち）

毎月第4火曜日 11:00～14:00

4月・5月・7月の3回開催したのち終了した。参加者 延べ45人

◎もちもちカフェ（認知症カフェ）

毎月第4木曜日 13:00～16:00

参加者 延べ127人（1回あたり平均 10.5人）

認知症の人とその家族 延べ62人

中区認知症地域推進支援員、国泰寺地域包括支援センター、土橋町町内会、土橋町民生委員、本川女性会、たぬき倶楽部等と連携し協力を得て開催した。当事者とその関係者が安心して集う為に事前の情報共有に心掛け参加者からの相談を他の地域の専門職につないだ。

本年も軽度の認知症の方が予防のために毎回参加され思いを話され症状は安定されている

若年性認知症の方の家族が毎回参加され日頃の暮らしの報告をすることで心の安定につながっている。新型コロナウイルスの感染予防のために3月以降のカフェ、認知症フォーラムを開催し啓蒙を予定したが中止とした。

※巻末資料「平成31年度 認知症カフェ運営補助事業実績報告書」参照

◎cotocoto@（ことこと@）

毎週月・木曜日 13:00～15:00

計52回 参加者 延べ52人

利用者・地域住民が参加し、古い着物の生地を活用して手縫いする手芸の技術で個々の作品や商

品作りを行っていった。利用者と地域の高齢者のつながりとなり生きがいのある社会参加の場となっている。いまは手を動かさなくなった利用者が傍で作品作りを見て会話が弾む場面もあった。

◎手話サロン

毎月一回 土曜日（不定期） 15:00～16:00

計10回 参加者 延べ42人

聾学校を経て作家活動をしている方に講師を依頼し、もう一つの言語や表現としての手話を楽しみながら広めることができた。手話の入門としての学びを通して、当事者と健聴者のコミュニティを形成する基盤ができた。毎月季節に合ったテーマなどで楽しく学んだ。

◎スマートブックカフェ 計12回 参加者 延べ55人

お気に入りの本を紹介して、対話しながら交流するカフェを実施。

多世代寺子屋の事業で開催していたが担当者が要介護になりデイサービスの介護計画の1つとして位置づけ体調管理のサポートを受けながら開催した。

◎西本川のむかしむかしまちの史跡と神社ものがたり 計9回 参加者 延べ365人

主な活動

- ・講演会 本田美和子（郷土資料館学芸員）（参加者 41人）
- ・本川浜恵美須神社のお祭りと亥の子まつり 土橋町町内会と協働（参加者 267人）

※巻末資料「平成30年度共同募金 地域テーマ募金事業完了報告書」参照

◎夕焼けぼっぼ食堂

毎週木曜日に16時半～18時半開催となった 利用者延べ794人

有機野菜などの食材を使用しワンプレートで提供している。現在は新型コロナウイルスの感染予防のために休止中。

◎坂町平成ヶ浜 仮設住宅集会所「のびのびカフェ」

計11回 参加者 延べ94名

支援金 122,326円

カフェ 29,924円

残金 92,402円

H30.7.7に発生した西日本豪雨災害に際して支援金・物資を募り、坂町平成ヶ浜仮設住宅集会所において毎月一回「カフェ」を設置。3月は新型コロナウイルス感染予防の為に中止。

◎日本酒持ち寄り自己満足の会 6回 参加者 延べ154人

デイサービスの空き時間を利用して、各自が飲みたい又は飲ませてあげたい日本酒を持ち寄り”美味しい”をシェアして楽しんでいる。同時に施設使用料を寄付して福祉施設運営にわずかでも協力しようというボランティアな取り組みでもある。

土橋のおうち地域交流広場 活動団体一覧(令和2年3月31日現在)

| 内容 | 開催日 | 開催時間 | 回数 | 参加延べ人数 |
|-------------------------|--------|-------------|-----|--------|
| よぼうの秘密ランチ会 | 第4火曜日 | 11:00~14:00 | 3回 | 45人 |
| もちもちカフェ(認知症カフェ) | 第4木曜日 | 13:00~16:00 | 12回 | 62人 |
| cotocoto@(ことこと@) | 月・木曜日 | 13:00~15:00 | 52回 | 52人 |
| スマートブックカフェ | 月1回土曜日 | 13:30~16:00 | 12回 | 55人 |
| 坂町平成ヶ浜 仮設住宅集会所 「カフェ」 | 月1回不定期 | 13:30~15:30 | 11回 | 94人 |
| 参加延べ人数 計308人 | | | | |

自主活動グループ

| 内容 | 開催日 | 開催時間 | 回数 | 参加延べ人数 |
|-----------------------------|---------------|-------------|-----|--------|
| 西本川のむかしむかしまち の史跡と神社ものがたり | 第3木曜日 他開催日 | 18:00~20:00 | 9回 | 365人 |
| 手話サロン | 不定期土曜日 | 15:00~16:00 | 10回 | 42人 |
| 夕焼けぽっぽ食堂 | 毎週木曜日 | 16:00~18:00 | 47回 | 794人 |
| 実践！自己探求ヨーガ | 不定期土曜日 | 18:30~19:30 | 7回 | 28人 |
| 参加延べ人数 計1,229人 | | | | |

(2) 古田のおうち

◎地域食堂 (デイサービス古田のおうち)

延べ利用者数 213人

毎回、地域の方が集い和やかに会話を楽しみながら食事をされている。

◎もちもちオレンジカフェ

平成31年4月~令和2年3月 計11回 延べ利用者数115人

毎月第4火曜日 14:00~16:00 開催

地域のご夫妻が数組、定期的に来られるようになり、繋がりができる。
お茶を飲みながら当事者・家族が気軽に相談や情報収集ができた。

◎古田ママの会

平成31年4月～令和2年3月 10回(8月休み・3月中止)

利用のべ数、ママ84名(子ども61名)

対象：未就園児とママ&プレママ

日時：毎月第2金曜日10時30分～11時45分

平成23年1月から始まったママの会。令和2年10月には開催100回目となり、記念にお祝いランチコンサートを行った。その他にも、アロマ虫よけスプレー作り・親子のコミュニケーション講座・水遊び&すいか割り・わらべ歌・クッキング・手形アート・コンサート等実施した。

内容によっては、古田のデイサービス利用者、グループホームの入居者、地域の方も一緒に参加していただき、多世代での交流も行った。

古田のおうち地域交流広場 活動団体一覧(令和2年3月31日現在)

| 内容 | 開催日 | 開催時間 | 回数 | 参加延べ人数 |
|-------------|---------|-------------|------|--------|
| 古田ママの会 | 第2金曜日 | 10:30～11:45 | 10回 | 145人 |
| 地域食堂 | 毎週月水木曜日 | 11:00～13:00 | 160回 | 213人 |
| もちもちオレンジカフェ | 第4火曜日 | 14:00～16:00 | 10回 | 115人 |
| 参加延べ人数 | | | | 計473人 |

自主活動グループ

| 内容 | 開催日 | 開催時間 | 回数 | 参加延べ人数 |
|---------------|---------|-------------|-----|--------|
| 歌のサロン 音連れ | 第1・3金曜日 | 13:00～15:00 | 20回 | 418人 |
| ふれあい交流会「いろり」 | 第2火曜日 | 11:00～14:00 | 10回 | 221人 |
| その他 | | | 3回 | 20人 |
| 笑いヨガ タッピングタッチ | 第4火曜日 | 11:00～12:00 | 12回 | 156人 |
| カフェ 万葉の和 | 第3土曜日 | 11:00～12:00 | 8回 | 106人 |
| 古江新町町内会 | 第1土曜日 | 10:00～12:00 | 6回 | 48人 |
| 参加延べ人数 | | | | 計969人 |

(3) 庚午のおうち

◎多世代シェアハウス 庚午のおうち

入居者 計4名(70歳代1名、60歳代1名、40歳代1名、20歳代1名)

空室2(令和2年3月現在)

毎月1回「快適シェア会議」を開催しルールの確認をし合っていたがスケジュール等の調整や難しい時期は開催できなかった。

シェア会議の時に食事係りと汚れが溜まっている場所と整理整頓の役割を分担して実施することになった。ルールブックの更新は無かったがお風呂の配管の掃除やごみ箱の掃除など会議の時に役割分担することになった。

広いシェアハウスなので個々の暮らしを守りながら適度な協力をして支え合っている。現在は新型コロナウイルスの感染予防のために会議は休止している。感染予防のために手洗いマスクを実施中。

◎もちもちの木 オープンスペース 「もちもちの子ろうご」

平成31年4月～令和2年3月(3月は中止) 38回 利用のべ数 親子441組(子ども500名)

対象：未就園児とパパママ&プレママ

日時：毎週月曜日10時～14時(祝日・お盆年末年始休み)

平成28年1月にオープンして5年目。現在10組以上の親子でにぎわう日も多い。7月には七夕会、夏には中庭で水遊び・そうめん流し、10月にはハロウィン、11月には地域の方と一緒に大掃除、12月はお餅つき、2月下旬にはひな祭りイベントも開催した。

◎庚午カフェ

第1・3火曜日 会費700円。11時～14時に開かれ昼食を食べながら集うカフェで、50代～70代のボランティア10人で手作りの昼食を提供している。

平成31年度は開催19回、参加延べ人数、850人で毎回45人位の参加がある。

ラジオ体操から始まり、落語、漫談法話、オカリナ演奏、手品、健康教室などを企画した。地域の方の要望を聞かせてもらい6年経過し、住民主体のコミュニティの場として定着してきている。

◎健康マーじゃん

平成25年5月に「飲まない、吸わない、賭けない」をモットーに発足し7年目に入る。

第1, 3, 5の水曜日13時～16時 会費300円（フリードリンク付き）。
 当初は4人で始まったが、現在は毎回40人の位の参加があり10テーブルをセッティングしている。31年度の参加延べ人数は1,014人で、半数以上は男性が占めている。
 毎週楽しみたいとの希望があり、「健康マージャンⅡ」も立ち上がった。
 人数が多くなりルールが微妙に違うため「庚午のおうちルール」を作成した。

※庚午カフェ・健康マージャンでは新型コロナウイルス感染予防の為に令和2年3月は休止としたが、参加者に電話を掛けたり訪問するなどフォローしている。

◎たぬき倶楽部

第3水曜日 19:00～21:00 庚午中学校グラウンド
 スポーツを通して若年性認知症当事者とその関係者が安心して集う場である。体調や家族負担に配慮して、いつ来てもいつ帰ってもいいように対応して柔軟な受け入れをした。
 フォーラム開催予定だったが、新型コロナウイルス感染予防のため延期とした。

庚午のおうち 地域交流広場利用集計

| 団体名・活動名 | 活動回数 | 参加延べ人数 |
|-------------------|------|--------|
| 庚午カフェ | 19回 | 850人 |
| 健康マージャン | 27回 | 1,014人 |
| 健康マージャンⅡ | 22回 | 329人 |
| 多世代寺子屋（よるのちょうない会） | 5回 | 73人 |
| オレンジャーひろば | 14回 | 401人 |
| たぬき倶楽部 | 9回 | 91人 |
| その他 | 10回 | 130人 |
| もちもちの子 こうご ※法人事業 | 38回 | 1,108人 |
| | 合計 | 3,996人 |

4. 総務

【求人活動】

ハローワークからの応募が激減し、人材派遣会社からの紹介および採用数が上回った。

法人の離職率は14.3%と昨年より少し増加したものの、全業種の全国平均14.6%および医療福祉業界の全国平均15.5%（平成30年、厚生労働省資料）を下回った。

令和元年度 採用実績

| 採用面接（公的機関経由） | 派遣・紹介（派遣会社ほか） | 採用 |
|--------------|---------------|--------------|
| 10名 | 16名 | 7名（うち派遣紹介4名） |

離職率推移

| 年度 | 年度当初の在職者数 | 年間退職者数 | 離職率 |
|--------|-----------|--------|-------|
| 平成29年度 | 43名 | 11名 | 25.6% |
| 平成30年度 | 40名 | 5名 | 12.5% |
| 令和元年度 | 49名 | 7名 | 14.3% |

【安全衛生】

◎もちもちの木 衛生委員会

計6回開催

- ・災害時緊急対応マニュアルについて検討し、研修を実施した。
広島市出前講座「防災対策について」10/16 危機管理室災害予防課 河本課長
- ・研修を踏まえ、デイサービス運営規程に災害時に休業する可能性があることを追加した。
- ・災害用物資の備蓄を進めているものの、保管場所確保と管理体制が課題。
- ・庚午のおうちの環境チェックを実施、危険物や不用品の撤去を行った。

◎産業医の事業場訪問・意見聴取

第1回 令和元年7月9日 土橋のおうち

特定業務従事者（夜勤者）健診結果の意見聴取12名、職場環境チェック

産業医：佐久間和代 先生

第2回 令和2年3月3日 土橋のおうち

定期健診結果の意見聴取26名、職場環境チェック

産業医：久保美由紀 先生

【働き方改革・職場環境改善】

◎労務

- ・勤怠管理システムをデイサービス土橋のうち・グループホーム土橋のうちで試験的に導入した。システム利用の習慣化や管理等に課題が見つかった。
- ・有給休暇取得率は50%を上回った。

◎情報通信技術（ICT）

- ・ネットワーク環境の再整備を行い、サイボウズ等を活用し業務効率を向上させる基盤を作った。
- ・契約内容を精査しコスト削減につなげた。

5. スタッフの参加・派遣、見学、研修等

（1）スタッフの参加

◎土橋・本川地域の活動への参加

法人として土橋町町内会役員（会計・総務）を担当し、町内会行事にも参加した。

| 実施日 | 内容 |
|-----------|---------------------------------|
| 4/28 | 土橋町町内会総会 |
| 8/5 | 原爆死没者慰霊盆踊り大会 |
| 11/8、11/9 | 西本川 浜恵美須神社 秋季例大祭 亥の子祭り（11/9） |
| 1/26 | 本川地区女性連合会 新年親睦会参加 |

（2）講師派遣

◎認知症サポーター養成講座

講師 竹中庸子

| 実施日 | 内容 |
|-----|-----------------------------|
| 6/1 | 認知症サポーターステップアップ講座 フォローアップ研修 |

| | |
|------------------|--------------------------------|
| 8/7 | 広島県行政書士会 広島支部 認知症サポーター養成講座 |
| 8/28 | 認知症アドバイザーと地域包括支援センターとの情報交換 |
| 10/9 | 中区認知症サポーターステップアップ講座 |
| 10/25・11/7・11/20 | みずほ銀行 広島支店 認知症サポーター養成講座 |
| 12/18 | (株)エラン 認知症サポーター養成講座 |
| 12/22 | 令和元年度 認知症アドバイザーフォローアップ講座 |
| 1/25 | 令和元年度 認知症サポーターステップアップ講座指導者養成研修 |

講師 木田裕子

| 実施日 | 内容 |
|------|----------------------------------|
| 2/22 | 広島市井口台・井口地域包括支援センター 認知症サポーター養成講座 |

◎その他の講座・シンポジウム等

講師 竹中庸子

| 実施日 | 内容 |
|-------|--|
| 8/1 | ひまわり生命 中国・四国統括部合同 HL アドバイザーセミナー「認知症＝絶望的ではない」 損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険（株）主催 |
| 10/31 | 若年性認知症に関する医療・介護従事者等研修会 ファシリテーター 広島市主催 |
| 11/8 | 第2回市民公開講座「人生100年時代 終活で安心のそなえ」 広島県行政書士会主催 |
| 2/5 | 第3回「共同労働」取組事例発表会「地域で安心して暮らせるつながり」2019年度 広島市「共同労働」プラットフォーム事業 |
| 2/6 | 広島市西区厚生部職員研修会「認知症の理解を深める～地域で暮らす当事者支援～」 広島市主催 |
| 2/8 | 広島銀行フリーカレッジ「認知症フレンドリー金融サービス研修」 広島銀行リスク統括部 お客さま相談室主催 |

職員が講師を務めた講座

| 実施日 | 内容 | 講師 |
|-------------|--|--------------|
| 11/16、12/21 | いきいきプラチナ塾 2019「今を共に生きるための演劇体験ワークショップ 百年ライフ劇場」 広島市西区古田公民館主催 | 澤 雅展 坂田光平 |
| 2/10 | 第6回西区地域福祉推進委員連絡会「住み慣れたまちに暮らし続けるために」 広島市西区社会福祉協議会主催 | 木田裕子 |

(3) 見学・ボランティア等受入

| 実施日 | 内容 |
|------|------------------------|
| 9/9 | 介護事業所 夢 見学1名 |
| 11/6 | 東京大学 高齢社会総合研究機構 見学3名 |
| 11/6 | 認知症サポーターステップアップ講座 見学5名 |

(4) 研修の受講

◎令和元年度キャリアパス研修（内部研修・全職員必修）

| 実施月 | 内容 |
|-----|-----------------------------|
| 4月 | 法人テキスト |
| 5月 | 第18期通常総会 |
| 6月 | アンガーマネジメント研修 |
| 7月 | 演劇を活かした認知症ケア研修「もし私が認知症だったら」 |
| 8月 | 事業所主催研修 |
| 9月 | 認知症ケア研修①事例検討 G土橋、D古田 |
| 10月 | 事業所主催研修 |
| 12月 | 社会人基礎力研修「課題発見力」 |
| 1月 | 認知症ケア研修②事例検討 G古田、D土橋 |
| 3月 | 認知症ケア研修③優しさを伝えるケア |

◎外部研修受講（全体）

| 実施日 | 内容 |
|-------|--|
| 9/11 | 「地域包括ケアシステムと介護人材の将来展望」（広島県主催） |
| 10/16 | 広島市出前講座「防災対策について」土橋のおうちにて 広島市危機管理室災害予防課 河本課長 |
| 10/19 | 「アルツハイマー型認知症の治療とケアを再考する」繁田雅弘先生（三原市） |
| 10/31 | 若年性認知症に関する医療・介護従事者等研修会「若年性認知症の方の介護保険サービスにつながるまでの支援について」（広島市主催） |
| 1/18 | 市民公開講座 認知症講演会「いつまでも自分らしく」（福山市・福山市地域 |

| | |
|-------------------|--|
| | 包括ケアシステム推進会議主催) |
| 1/24,1/27,2/3,2/4 | 第2回介護福祉士実習指導者講習会(日本介護福祉士会・広島県介護福祉士会主催) |

6. 調査・研究協力

◎第15回認知症ケア専門士認定試験 第2次試験審査員

審査員 竹中庸子

7. 想いと活動の紹介

◎情報発信

- ・法人ニュースレター「もちもちの木 smile」
令和元年夏号 1,500部発行 令和2年冬号 3,500部発行
- ・法人ホームページをリニューアルした。 <https://mochi2.stars.ne.jp>
- ・Facebook、Instagram でこまめな情報発信を心掛けた。

◎創立18周年記念「もちもちの木まつり」 令和元年11月9日

土橋町の西本川「浜恵美須神社」のお祭りとお亥の子祭りに合わせてもちもちの木まつりを開催した。

内容 鯛めし販売 古物市 土橋町町内会として祭りに参加 参加者268名

◎取材

- ・広島県国民健康保険団体連合会「ひろしまの国保」特集・多世代交流で福祉が変わる 2019年5月号
- ・広島市 広報「ひろしま市民と市政」特集・認知症と共に生きる 2019年9月15日
- ・(一社)日本産業カウンセラー協会中国支部 広報誌「かうんせらーず」 2019年11月号
- ・中国新聞「あなたは認知症ではない」 2020年4月6日